

# 述語等の使用および図表の書き方に関する基準

平成20年2月15日 制定

## 1. 述語の使用基準

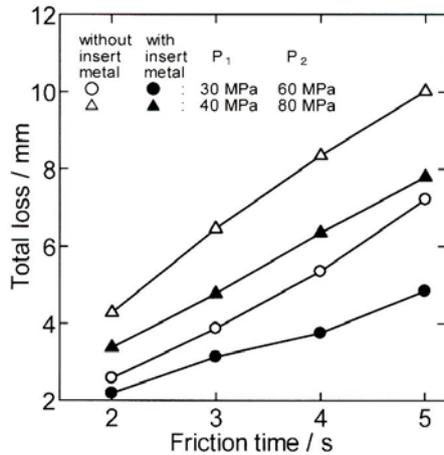
- 1) 英文は米語を使用する。特に“aluminum”とし“aluminium”としない。
- 2) 外来語はカタカナを使用する。適当な日本語がある場合は日本語にする。外国人名は原語で書く。原語(特に英語)の綴りの終りが er, or 等で、カタカナ3字以上のときは、末尾に長音記号を付けない(例：シリンダ, コンピュータ, ウィスカ)。ただし、地名には付ける。2字の場合は一般に長音記号を付けるが、慣例として付けない場合もある(例：ギヤ)。原語の綴りの終りが gy, py 等は長音記号を付ける(例：エネルギー, エントロピー)。ty の場合は付けない(例：ポロシティ)。
- 3) 元素名は、日本語で書くことを原則とするが、元素、原子、分子あるいは合金等を示す場合には化学記号を用いてもよい。ただし、1元素だけを示す合金は日本語で書く(アルミニウム合金とし Al 合金としない)。また、2元素以上の多元系合金の場合は、Al-Zn-Mg 合金のように化学記号を用いる。JIS などに規定されている合金の名称を用いる場合は、主金属系がわかるように 1100 アルミニウム, AC4C アルミニウム合金, AZ91 マグネシウム合金のように書く。なお、本文中で繰り返し使う場合は最初だけ書き、その後は JIS 記号のみでもよい。
- 4) 本文中の注は、すべて脚注とし、各頁ごとに本文中に星印(\*1, \*2)で示す。脚注を付記する場合は、そのページの下欄枠内に横線で区別して書く。
- 5) 数量を表す文字は、定数、変数はともにイタリック体を用い、その他の数量単位、数学上の記号、数値はローマン体を用いて書く。
  - ① 量記号(長さ  $l$ , 面積  $S$ , 体積  $V$ , 圧力  $P$ , 力  $F$ , 応力  $\sigma$ , ひずみ  $\varepsilon$ , 温度  $T$  など)および定数 ( $x, y, z, K, N$  など)はイタリック体を用いる。
  - ② 数量単位 (m, MPa, s など) および数学記号 (exp, log, sin など) はローマン体を用いる。
  - ③ 硬さ記号は HB, HV ではなく、JIS 通りに HB, HV を用いる。
- 6) 数式は、分母、分子が明らかになるように書く。

(A + B) / (C + D) を A + B / C + D としない。1行の式中に斜線を2本用いない。  
A / B / C は  $AB^{-1}C^{-1}$  とする。

## 2. 図表の書き方の基準

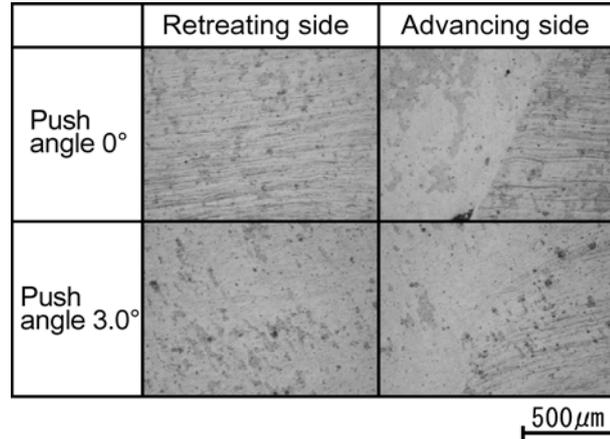
- 1) 図・写真の書き方
  - ① 図・写真(以下、図という)中の文字・記号の大きさおよび線の太さは、図中の文字や線が読みにくくならないよう、以下の刷上りでの大きさ、太さを基準とする。
  - ② 文字の大きさは2 mm以上とする。記号(○, ●, △, ▲, □, ■, ×等)の大きさは1 mm以上とずる。
  - ③ グラフの座標軸の説明文の文字は3 mm程度とする。
  - ④ 図の座標軸線、外枠線およびデータを示す線の太さは0.2 mm程度とする。また、図中の引出線、座標線はそれよりも細くする。
  - ⑤ 説明文の英文は米語を用い、最初の単語の最初の文字は大文字とし、他は小文字とする。
  - ⑥ 2段組の1段(片側)では図が小さくなり、文字、記号等が①に示した基準が確保出来ない場合は、段組を解除して適当な大きさの図を貼付け、その後、再度本文の段組を継続する。この場合、図の横幅は用紙幅一杯にしないで図の両側に適当な余白を残すように注意すること。
  - ⑦ 写真には必ず縮尺を入れる。
  - ⑧ キャプションは図の下側に記載し、文末にピリオド(.)は付けない。

【図の例】



**Fig.1** Relation between friction time and total loss

【写真の例】



**Fig.2** Microstructures of friction stir welded 5052 aluminum alloy joint

## 2) 表の書き方

- ① 文字・記号の大きさは8～9ポイント(pt)とする。
- ② 横線は最上部は二重線，その他の線は細い実線とする。（例参照）
- ③ 同一項目の欄には横線は描かない。（例参照）
- ④ 縦線は細い実線とする。
- ⑤ 外周の縦線は描かない。（例参照）
- ⑥ 2段組の1段（片側）では表が小さくなり，文字，記号等が①に示した基準が確保出来ない場合は，段組を解除して適当な大きさの表を貼付け，その後，再度本文の段組を継続する。この場合，表の横幅は用紙幅一杯にしないで表の両側に適当な余白を残すように注意すること。
- ⑦ キャプションは表の上側に記載し，文末にピリオド（.）は付けない。
- ⑧ 表中の行間隔は任意とするが，体裁の良い表になるように設定すること。

【表の例】

**Table 1** Chemical compositions of base metals (mass%)

Materials	Si	Fe	Cu	Mn	Mg	Cr	Zn	Ti	Al
5052	0.09	0.18	0.01	—	2.30	0.16	—	—	bal.
2017	0.47	0.24	3.80	0.65	0.58	0.04	0.03	0.02	bal.

**Table 2** Friction welding conditions

Rotational speed	$n$ ( $s^{-1}$ )	58
Friction pressure	$P_1$ (MPa)	15, 30, 45, 60
Friction time	$t_1$ (s)	2, 3, 4, 5
Upset pressure	$P_2$ (MPa)	0, $2P_1$
Upset time	$t_2$ (s)	5